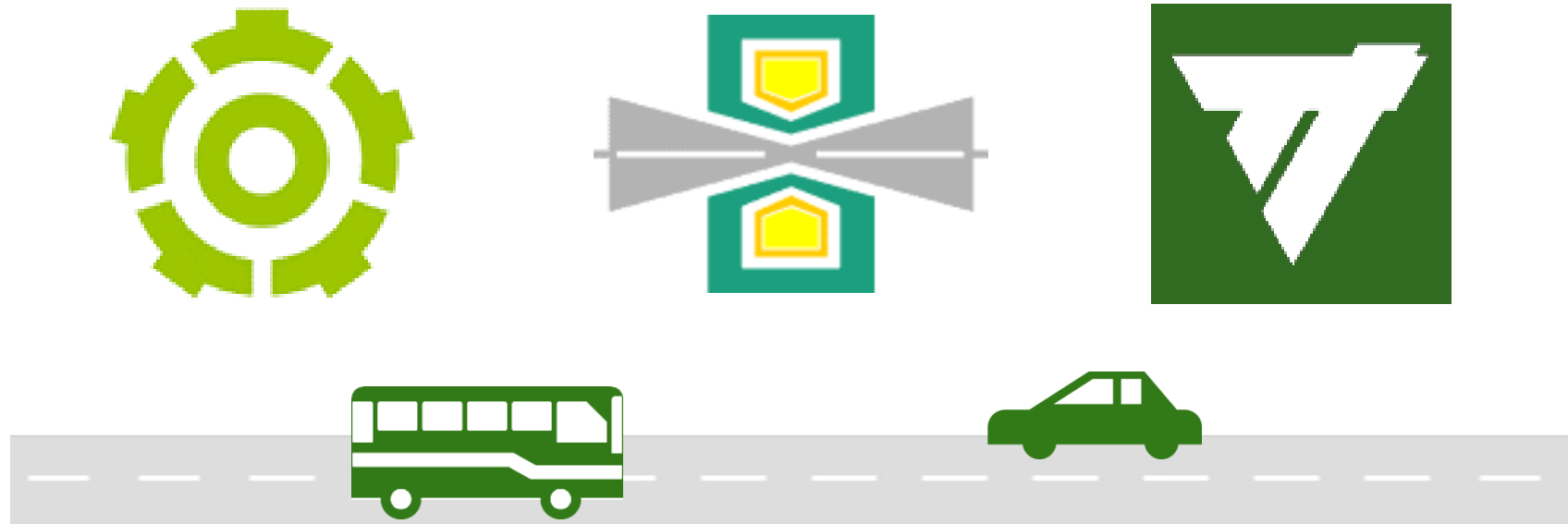


五城目町・八郎潟町・大潟村 3 町村の地域公共交通について

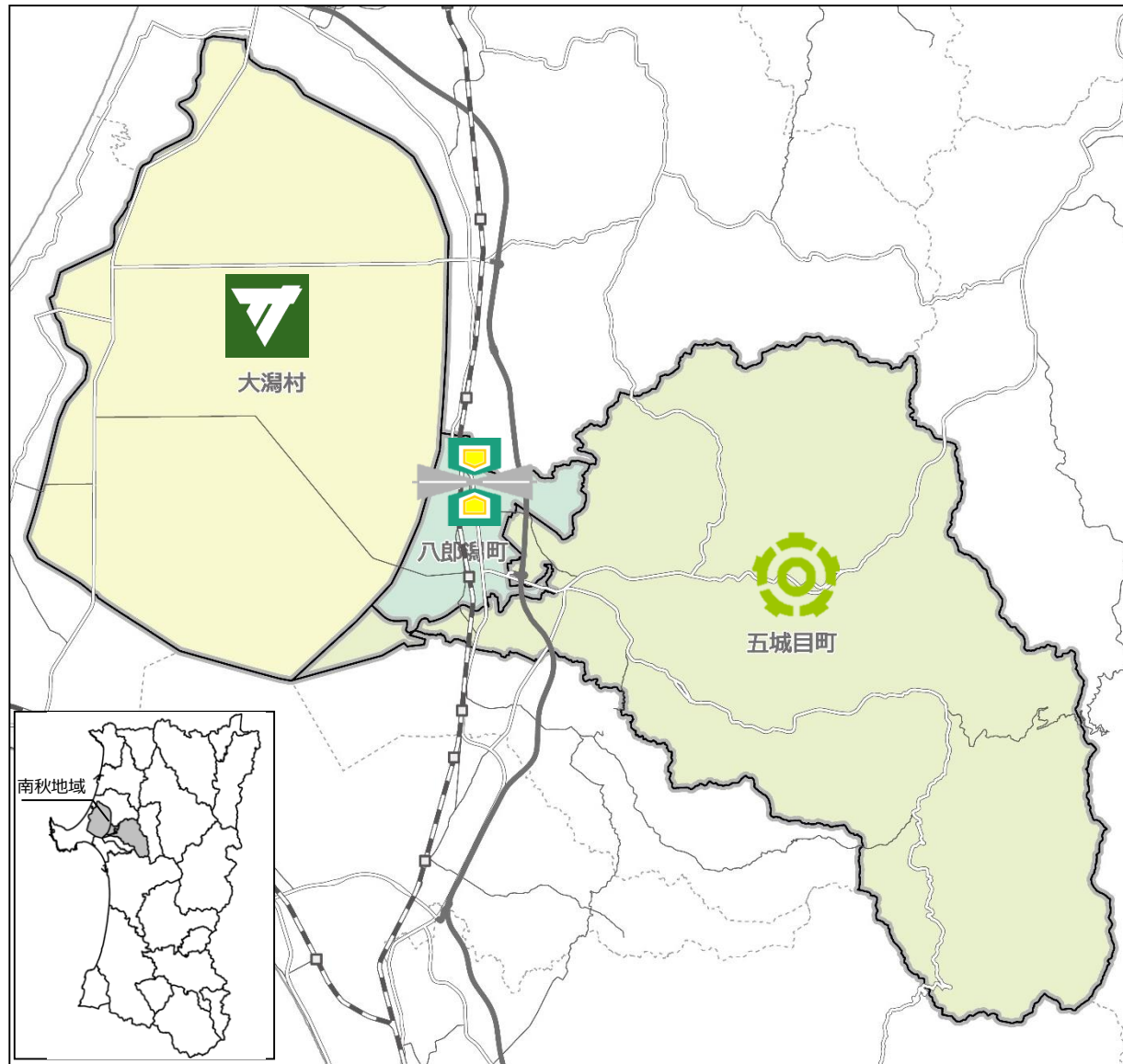


南秋地域公共交通活性化協議会

平成30年11月9日

おでかけ交通博2018inあきた

南秋地域3町村の現況



「五城目町」「八郎潟町」「大湊村」

- ◇五城目町…IC・大型商業施設・高校
 - ◇八郎潟町…鉄道駅・総合病院
 - ◇大湊村…大型宿泊施設・産直センター
- 地域住民には日常的に町村間を跨ぐ、広域的な行動がみられる。交通面での連携も望まれている。

本 地 域 の 公 共 交 通

- ◇JR奥羽本線
- ◇民間路線バス 五城目線
- ◇民間路線バス 八郎潟線
- ◇五城目町 予約式乗合タクシー
中心部循環バス
- ◇八郎潟町 予約式乗合タクシー
- ◇大湊村 大湊村マイタウンバス

本 地 域 の 人 口

- ◇3町村合計人口18,961人（H27）
40年後には11,554人（約60%）に減少することが見込まれている。

南秋地域3町村の交通面での課題

効 率 性 の 確 保

3町村のコミュニティ交通と民間路線バスに重複区間がある。

生 活 行 動 に 合 っ た 交 通 サ ー ビ ス

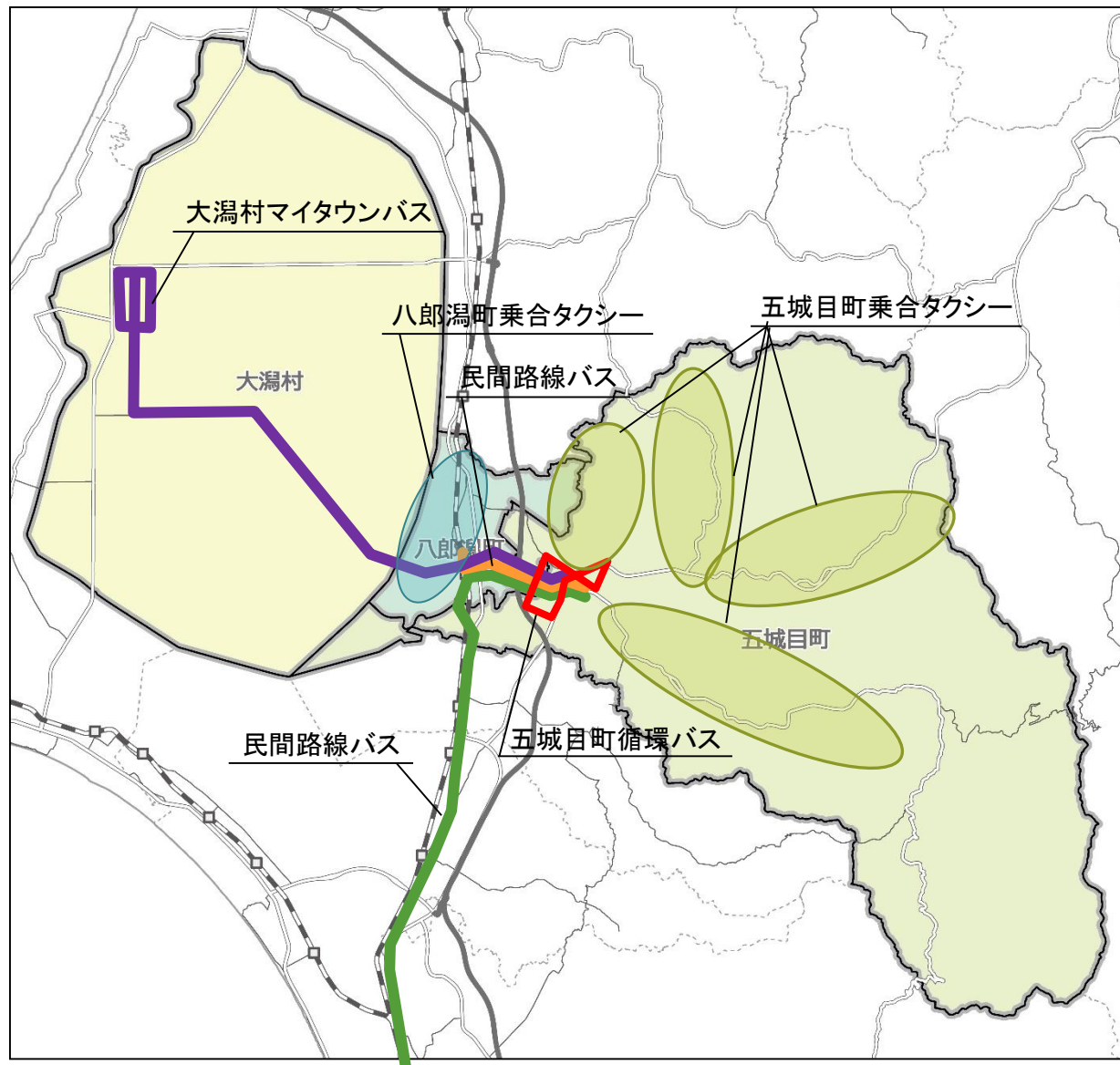
主要施設は3町村それぞれに分散立地しており、町村の域を越えて主要施設を結ぶ交通サービスがない。

各 交 通 機 関 の 利 用 制 限

3町村のコミュニティ交通はそれぞれの住民の利用を目的としており、他町村の交通機関の利用に制限がある。



複数バス停が並ぶがその利用には制限があるものも...



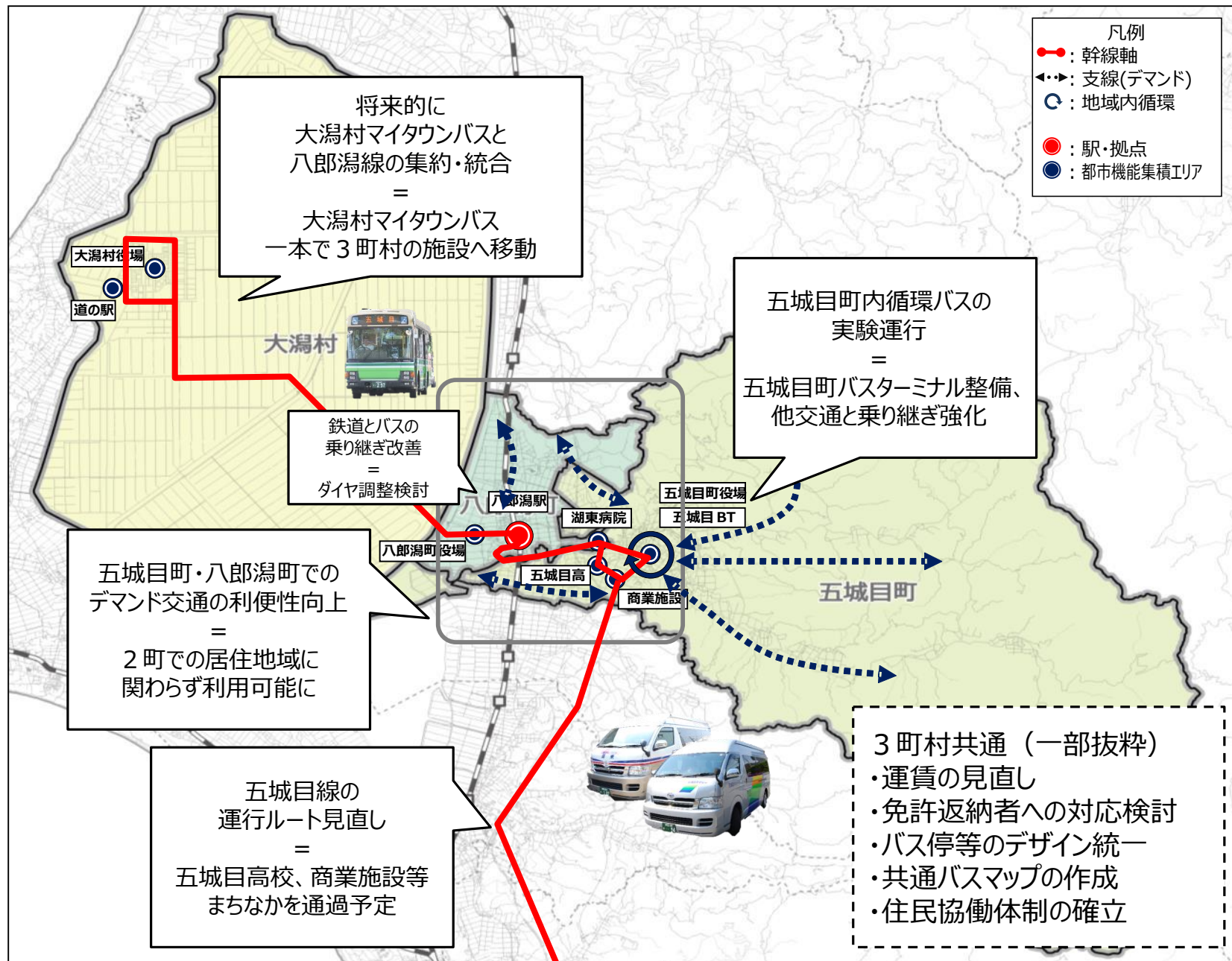
南秋地域公共交通網形成計画

◇平成29年4月 南秋地域公共活性化協議会設立

◇平成30年3月 南秋地域公共交通網形成計画策定

基本方針	プロジェクト
3町村広域連携公共交通軸の形成・再編	➤ 3町村を結ぶ地域間幹線交通の導入 ➤ 誰でも利用しやすい地域内交通への見直し ➤ 3町村の各主要拠点の連携強化
主要な施設を交通拠点化・賑わい創出	➤ 3町村内で運行する地域内交通と接続する交通拠点づくり ➤ 病院施設・商業施設等と連携した待合環境・情報案内機能の整備
誰でもわかり、安心して使える公共交通	➤ 誰でも利用できる運行システム ➤ 誰でもわかる案内・情報提供
3町村連携による持続可能な運営・仕組みづくり	➤ 3町村広域連携会議の設置 ➤ 住民が運営・運行に参画できる、住民との協働可能な仕組みづくり ➤ まちづくり等施策間連携による持続可能な運営・事業スキーム

将来イメージ



南秋地域公共交通再編事業

公共交通再編プロジェクト

形成計画において再編事業と位置付けるプロジェクトについて、具体事業計画を定める「再編実施計画」の策定を進めている。

プロジェクト	具体実施内容
3町村を結ぶ地域間幹線交通の導入 	民間路線バス八郎潟線と大潟村マイタウンバスの集約・統合 ➤ 3町村の拠点間を乗り継ぎなしで移動できるものとする
誰でも利用しやすい地域内交通への見直し 	乗合タクシーのエリア再編 ➤ 町域を越えて既存エリアを再編し、居住エリアに関係なく利用できるものとする

検討過程における悩み

- ◆ 運賃設定
- ◆ コストと利便性のバランス
- ◆ 構成町村の財政負担割合
- ◆ 再編後の事務の分担割合

…などなど

南秋地域公共交通再編後に想定される課題等

新たな運行の周知

コストもあまりかけられないが、どのような周知方法が良いか。

利用者の確保

広域路線は通学利用が多く見込まれており、また、高齢化が進んでいることから運転免許返納者特典等も検討する。若年層と高齢層の利用者を囲むような施策展開。

まちづくりとの連携

公共交通の存在とその活用を意識したまちづくりを進める。観光、健康増進施策等。

将来的な財源

国補助金等、財政支援を必須としている。
制度が変わった場合、サービスレベルを維持できない可能性。

周辺市町村との連携

周辺市町村との連携により、民間主導・行政主導を問わず幹線交通を充実する。

利用者の意識

公共交通は当然に与えられるものではなく、住民自らが作り、維持していくという意識の醸成。公共交通で「おでかけ」したいと思える環境づくり。



願人踊り(八郎潟町)



朝市(五城目町)



菜の花ロード(大潟村)

ご清聴ありがとうございました

南秋地域公共交通活性化協議会

平成30年11月9日 おでかけ交通博2018inあきた